長崎の美味しい島めぐり

五島

Goto

江戸時代の町並みでアートに触れる

武家屋敷通り

「薬医門」と呼ばれる武家屋敷の門は厳かで、往時を偲ばせる。

福江

江島は江戸時代、福江藩一万二千石のお膝元として栄えた町で、港周辺には江戸時代の面影が色濃く残っている。

中級武士たちが屋敷を構えていたという武家屋敷通りは、約四百メートルにわたって石垣が続く風情たっぷりのエリア。ガイドの岩崎孝明さんは石垣の上に積まれた丸石を指しながら「この『こぼれ石』は屋敷に侵入者があった場合、石が落ちる音で危険を察知するというもので、侵入者に投げつける武器としての役割もありました」と話す。このような石垣は全国的にも珍しいそうで、こぼれ石が落ちないように両端で止めている「かまぼこ石」も五島ならではだ。

一八六三年に建築

かまぼこ石

五島邸

「亀の間」の釘隠しには、盛成公が好んでいた亀があしらわれている。

主に主人の居間として使用された「梅の間」からは、美しい庭の風景を楽しむことができる。

山本二三美術館

武家屋敷と二三ワールドのコラボが素晴らしい。

五島は良かとこ！
私たちが
案内します。

NPO法人アクロス五島の岩崎孝明さん（左）と山口澄子さん

された「松園邸」は、幾度かの修理を重ねてはいるものの、武家屋敷通りの中でも唯一、当時のままの姿を残している。ここで楽しめるのが美しいアートの世界。五島市出身のアニメーション美術監督・背景画家の山本二三氏が手掛けた作品が並ぶ「五島の雲 山本二三美術館」として活用されているのだ。山本氏が美術監督を務めた「天空の城ラピュタ」など数々の作品に登場する「雲」は、湧き立つような独特の質感を持ち、「二三雲」と呼ばれている。館内は故郷を描くライフワークの作品群「五島百景」の展示をはじめ、再現されたアトリエや、まるで五島の上空に浮かんでいるかのような撮影スポット「空と雲の部屋」など、見どころ満載。歴史ある建物とアニメーション美術のコラボレーションは、新しさの中に懐かしさを感じさせ、時間を忘れてしまう。

最後に訪れたのは、五島家第三十代盛成の隠居所として建てられた五島邸。「心」の文字をかたどった「心字が池」のそばでは、樹齢八百年を超える大きなクスノキが庭園を見守っている。ガイドの山口澄子さんは「この庭を造ったのは、京都から五島に流罪となった僧・全正です。京の文化が西の果ての五島までやってきたという点も評価され、国の名勝に指定されています」と話す。庭はぐるりと散策でき、屋敷の中も見学可能。部屋ごとに障子や壁紙の意匠が異なり、カメやウサギの釘隠しなど、高いデザイン性を感じさせる。ここで庭を愛でながら暮らした盛成公。自然を愛し、遊び心を大切にした人柄が偲ばれた。